

## 2. 基本形を持つことで応用ができる

自然災害における対応で大事なことは避難するということですが、何時、どこに、どのようにということに加えて、避難後にどう行動するのも同時に重要なこととなります。自然災害は、多くの場合に体感や情報などによって状況を把握して、避難行動となりますが、その情報を適切に判断して冷静な行動を起さないと新たな事故や火災などを誘導することにもなりかねません。同じようなことは起きないにしても基本的な避難スタイルを持つておくことは大変有効なことです。基本的な型を持つていれば、状況によって臨機応変に修正することが出来ます。災害発生時は誰でもあわてて、衝動的な行動になりがちです。そのとき、冷静かつ適切な行動を起すことは自助のためであり共助にもなります。そのために防災訓練は、プログラムが組まれていることが多いので、活用することが必要です。まずは参加して自分における防災への動機づけとして活用して欲しいと思います。

防災で大事なことは、地域でどのような災害リスクがあって、どんなことが想定されるのか、発生したときにどのような行動をする必要があるのか、避難所や避難ルートは安全か、代替ルートはあるか、避難所生活における役割は何かなどを確認することです。もちろん、これで安心、安全というわけではありません。というのも自然災害はその誘因によってさまざまに状況が変化しますので、そのまま適用できるものではありません。しかし、基本の型を有していると、さまざまに応用出来ますし、相手によって変幻自在になれます。よく言われていることでもあり、実感するのは日常で出来ないことは災害時にも出来ないということです。ワザを身につけるといえることはこういうことであると思います。いわば、応用問題を解くには、基礎がしっかりと理解されていないと手も足も出ないということと同じです。基本形を持つてということは、発想を広げるといえることに通じます。地域で防災を考え、共有して実践できるようにするためには、まずは地域の災害リスクの抽出が大事です。これについては、専門家のアドバイスを受けながらさまざまな資料を駆使して洗い出すことが良いと思います。もちろん地域の方々の経験や言い伝えなども大切です。

次に、災害時にはその地域でどのようなことが大事になるかについては、地域の方々が主になって、さまざまな意見を自由に発想し、そこから改善すべきこと、要望すべきことなどを整理するという経験が重要だと思います。そして、参加者は各世代に亘ることが望ましく発想も豊かになります。そして、続けること、継続することが欠かせません。